

陸軍の兵力増強に策應し、海軍はカーニコバル島に吳第八特隊を、ブレアに防空隊一隊、砲隊一隊、サバンに砲隊一隊を、一九四三年七月末注入した。

第六 一九四三年七月より一九四四年三月までの作戦

一九四三年初頭以來小康を保つてゐた南東方面の戦局は、同年六月下旬、聯合軍のニュージヨヂヤ方面及び東部ニューギヤ方面進政により俄然活況を呈し、且つ戦局は明にわが方に不利であつた。九月に入るや、わが陸海軍全般の作戦指導の改變を要するに至り、九月三十日大海指第二八〇號を以つてその旨達^示された。

大海指第二八〇號

中南部太平洋方面作戦 陸海軍中央協定 抜萃

其の作戦方針とするところは

海軍

1699

「帝國陸海軍は密に協同し南東方面の要域に於て來攻する敵を擊破して極力持久を策し此の間速に濠北方面より中部太平洋方面要域に亘り反擊作戰の支撐を完成し且反擊戰力を整へ來攻する敵に對し徹底的反擊を加へ勉めて事前に之を覆滅し其の戰意を挫折せしむ」であつた。

これが爲執るべき作戰指導要領中には、南西方面關係事項としては、次のことが指示せられた

- 一 概ね昭和十九年春頃を目途として濠北方面要域及カロリン、マリアナ各群島方面要域に亘り作戰基地整備及其の防備強化、比律賓方面に於ける作戰根據の造成及空海陸反擊戰力の整備等反擊態勢を速急に強化す
- 二 概ね昭和十九年中期以降に於て濠北方面より狀況之を許す限り積極作戰を實施するに努む

攻撃指向方向に関しては別途研究し所要の準備を進む

しかして、濠北方面の陸海軍航空基地整備に關して次の如く指示せられた。

海
軍

1701

第三第一	サガ	ヌホオル	ワイムエト	ナミカ	マトア	バボ	フアクンアク	マノクワリ	ソロン	管セル湖	ナビレ	ビセアルクイ	ヌボアイ	サルミ	ワダダ	ホラシデヤ	基地
新成	設置中			新成	概成	新成					新成	概成		新成	概成	新成	概成
	○	○	○				○	○	○			○	○	○		○	○
○				○	○	○	○		○	○	○				○		
																○	
B			A	○					A		B			A	B		A B

遼北方面航路基盤整備に関する分擔（「ニエーギニヤ方面」）

ア ハ	ウ イ ロ	ウ シ ト	カ レ ラ	カ サ	ワ ハ イ	ア ウ ラ	ア マ ハ イ	ハ ル ク	リ ア ン	リ ン カ ツ ト	カ イ	ア ル ノ （ ヤ ）	ナ レ ア	ア ラ	ア ン シ ン	カ レ バ ル	ケ イ	ア ル	港
				No.1							No.1	No.2	No.1	No.2	No.1	No.1	No.1	No.1	現 状
○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○							○
				○										○	○	○	○	○	○
													○						○
																			○
			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

（ハンカイノラ、オラト、藤島方面）

この帝國軍全般作戦計畫の変更は、南西方面地域に大變化をもたらし、即ち從來比較的、第二線的意義しかなかつた西部ニューギニアよりの濠北地帯が一躍次の防衛主線となつたからである。しかもこの地域は、概ね未開邊境の地であり、これが急速戦備化は容易ではなかつた。海軍としては從來この地域に少數兵力の警備兵力を駐屯せしめ、所在地域の警備及び附近地帯の兵要調査をなすにすぎなかつた。

新に國防要域となつたこの地域の防衛計畫の骨子は、西部ニューギニア即ちソロモン、バポ、及びサカ各方面に強靱な航空築城を実施し、以つて強力な航空反撃を実施するにあつた。またこれと同時に、後方策源地としてハルマヘラのカウ湾を整備することをも目途とした。これ等の計畫に對しては、直ちに調査に着手すると共に、急速設營部隊を現地に進出せしむ

るに努めた。そして一九四三年末頃には、概ね施設に着手した。その努力は見るべきものかあつたが、一九四四年五月聯合軍がピアグ島方面に進攻した際には、敵聯合軍の來攻が予想以前に早かつたのと、且つまた工事そのものか意外に大工事であつた等の爲結局その機能を發揮するに至らなかつた。

これ等の防備強化の爲、組織上の強化もまた相次いで行はれた。一九四三年十一月一日にはハルマヘラに第二十六特別根據地隊が新設せられたのを始めとし、同年十一月十五日には東部ニューギニヤを管する第九艦隊が編成せられた。更に同十一月三十日には、第二十四根據地隊、第二十五及び第二十六特別根據地隊を統合する第四南遣艦隊が新設せられ、西部ニューギニヤ及び濠北一帯を管することとなつた。

この間に於ける濠洲西北岸に對するわが航空作戦は、戦力の低下に伴ひ、急速に弱化した。一九四三年八月、九月及び十一月の月明時には陸攻を以つてポートダウイン東南地帯に散發的に夜間攻撃を實施したが、同年末以後に於てはそれすら實施困難となるに至つた。これに反し、濠洲西北岸を基地とする敵聯合軍航空作戦は急速に活潑化した。一九四三年夏期以降に於ては、アラフワ海離島方面、チモール方面の制空權は殆んど彼の蹂躪に委せ、ケンダリー、マカツサル、バリックババンすら攻撃を受くるに至つた。その情況は日一日と強化されていつた。